

かつての有用樹木の再活用について

～ハゼノキから簡便にロウ（Japan wax）を採取する方法①～

緑環境景観マネジメント研究科

〇准教授 いわさき てつ や
岩崎 哲也

キーワード

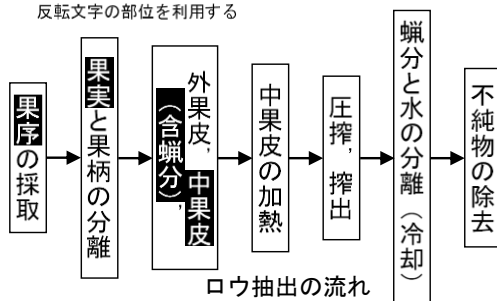
蠟燭，有用樹木，灯火植物，外来生物，環境学習



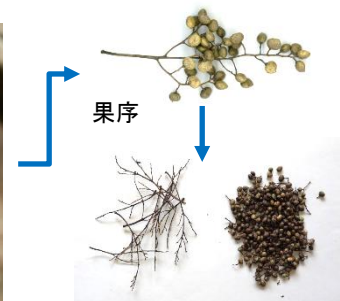
研究概要

ハゼノキ *Toxicodendron succedaneum* は、公園緑地などに普通に見られ、外来種といわれる。日本ではかつて採蠟を目的として大量に植栽された。また、果実を好む鳥類によっても日本各地へ広まっていったと考えられる。身近に多数生育していることから、現在もこの果実から蠟燭を採取しようとする試みが各地で行われているものの、一般の市民が気軽にロウを採取するのは簡単ではない。このため古来の生産方法を参考に、市民や教員が入手することができる一般的な用具を用い、簡便で安定的にロウを採取する方法を検討することを目的として、果実の採取からロウの精製までの工程を検証した。すなわち、果序の採取と保管方法や期間、果柄の分離方法、外果皮・中果皮（含蠟分）・種子の分離方法、果皮の加熱方法、圧搾器、搾出方法、蠟分と水の分離（冷却）、不純物の除去等の7つの項目の検証を行った。

反転文字の部位を利用する



ロウ抽出の流れ



果柄（左）と果実（右）に分離



抽出液（矢印が液体のロウ）



冷却後の固体のロウ



ハンドプレスジュース



粉碎し、中果皮と核に分離



ガーゼで包んで蒸す

アピールポイント

かつて人のために植えられた植物が役目を終え、今は雑木や外来種などとして嫌われます。忘れられた植物資源を活用して、種子散布量を減らすことにもつながります。